

令和2年度校内研究推進計画

福島県立大笹生支援学校

1 研究主題

深い学びの実現を目指す授業づくり ～「深い学び」による資質・能力の育成に向けて～

2 研究設定の理由

平成29・30・令和元年度の校内研究では、「一人一人の学びを支えるインクルーシブな学校づくり」とし、本校の教育目標である「自立と社会参加」と本校教育課程の基本的な考え方で示された目指す学校の姿である「インクルーシブな学校」を実現するため、教育課程の枠組みとそのつながりを確認しながら、各教員が実践を通して学び合う校内研究を進めてきた。「大笹生支援学校モデルカリキュラム」において「年間指導計画モデルの作成＝何を学ぶか」については、教育内容の全体の見える化を図り指導計画や指導内容、指導方法を共有することや教科間、学年間、学部間のつながりについて検討、活用について協議をすることで年間指導計画や指導内容の改善についての共通理解を促すことにつながった。

「学びの過程を踏まえた授業実践＝どのように学ぶか」においては、一人一人の学びの姿を具体的に設定し、学びの過程を踏まえた授業実践の中で具体的な手立てを工夫していく研究を進めたことで、研究の成果としては、一人一人の実態や内面、学びの過程等に目を向けることが具体的な手立てにつながるものが挙げられた。一方、授業研究の進め方に課題があり、チームでの授業づくりや授業改善の深まりが求められていたため、3年次の研究では「みんなで、授業をつくる～目標設定と学習評価～」をテーマとして掲げ、目標設定と学習評価について視点を置き、各学部で編成したグループによる授業研究を行い、具体的に目標設定し、授業参観を通して丁寧に児童生徒の姿を見取り、設定した目標に基づいた学習評価をすることにつながったことが成果として挙げられる。一方で、「主体的・対話的で深い学び」についての概念理解において、授業実践の中で「主体的な学び」「対話的な学び」の姿を具体的な児童生徒の姿で考えたことで、理解が深まってきたものの、「深い学び」についてはどのように捉え、どのような姿を目指していけばよいか考えていくことが課題として挙げられた。

以上のことから、令和2年度・3年度（2年計画）は、研究主題を「深い学びの実現を目指す授業づくり～「深い学び」による資質・能力の育成に向けて～」とし、「深い学び」と児童生徒に育む資質・能力とのつながりを整理し、「深い学び」につなげるための授業づくりにおける視点を研究していきたいと考える。平成28年中央教育審議会答申では、「深い学び」を実現するためには「習得・探求・活用という学びの中で各教科等の見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてよりよく理解したり情報を精査して考えを形成したり問題を見いだして解決策を考えたり思いや考えを基に想像したりすること」としている。授業改善の視点として各教科等の特質に応じた「見方・考え方」について押さえ、児童生徒が「見方・考え方」を働かせるとはどんな姿かを考えた授業づくりを行っていくこと、前研究で作成した年間指導計画モデル ver. 3の研究成果も活かしつつ、それぞれの学習場面の成果を他の学習場面、様々な生活場面でも活用できるよう教科等横断的な視点をもった指導内容を検討、関連付けていくことで児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現による資質・能力の育成と充実を図ることを目指すとともに、

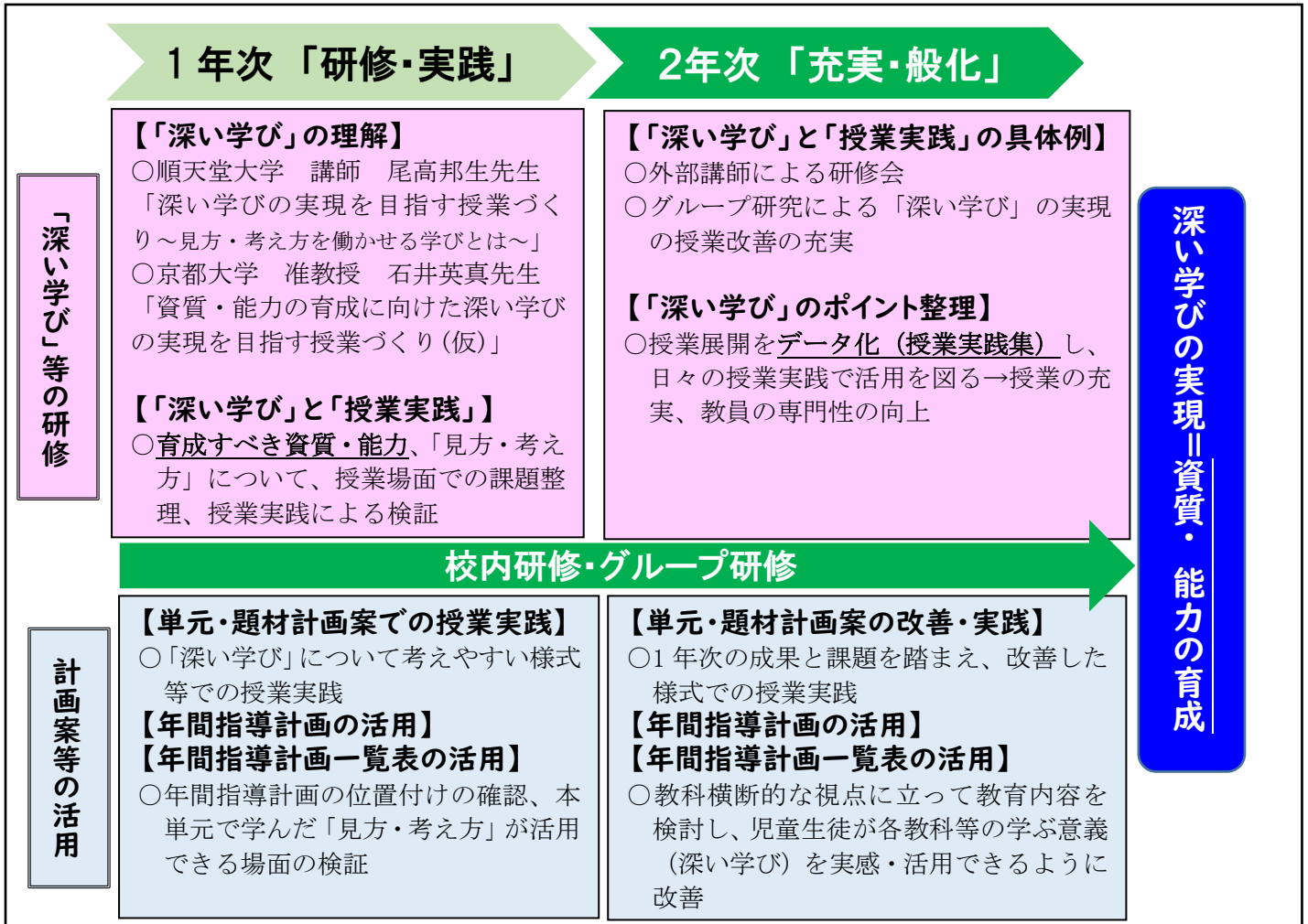
教師一人一人の資質と専門性の向上を図ることで学校教育目標の具現化を目指していきたい。

3 研究目標

- (1) 学習指導要領のさらなる理解と共有化を図り、児童生徒が「深い学び」を実現するための学習内容や指導方法等について検討を行い、課題点を明らかにする。
- (2) 各学部において、「深い学び」を実現するための授業改善の視点「各教科等における見方・考え方」「各教科等横断的な指導内容」の視点を踏まえ、授業内容や指導方法の検討及び検証を行い、授業実践を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を図る。
- (3) 授業研究（授業参観）を実施し、授業改善を図るとともに、授業の質や教職員の授業力の向上を目指す。
- (4) 研究内容について学校全体で共通理解し、教職員の指導力と専門性の向上を目指す。

4 研究方法及び内容

- (1) 研究組織は、小学部、中学部、高等部とし、研究主題に応じて各研究グループの研究テーマを設定し、研究仮説に基づいた校内研究を行う。
- (2) 学習指導要領を読み合わせ、「各教科等の見方・考え方」「各教科等横断的な指導内容」の視点をもった授業づくりにおいて、育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）に基づいて単元・題材での学習内容（何を）や指導方法（どのように）、主体的・対話的で深い学びを実現するための手立てについて指導案（単元・題材計画案）を作成、検討するとともに、授業実践を通して理解を深める。
- (3) 授業参観形式の授業研究を実施し、グループ内での授業参観を通して、教職員同士が学び合う場を設定する。
- (4) 全体研究会において、各研究グループの内容や成果と課題を共有することで、校内研究の共通理解を図る。



※2年次については、あくまでも仮説とする。本年度の進捗状況から再度検討していく。